

# 町田地区保護司会だより

第117号

発行 町田地区保護司会  
会長 中里 真二  
編集 広 報 部  
TEL 042(794)6791



本町田 宏善寺 枝垂れ梅



## 「息の長い支援の充実に向けて」

東京保護観察所長 生駒 貴弘

町田地区保護司会の皆様には、平素より、更生保護活動に多大なるご尽力をいただき、厚くお礼申し上げます。昨年11月には、町田地区更生保護サポートセンターを訪問させていただき、同センターを活用する充実した活動の状況を知ることができ、たいへん心強い思いを抱いた次第です。

さて、長く減少を続けてきた刑法犯の認知件数が、令和4年では20年ぶりに前年比で増加に転じたようです。社会全体を震撼させるような重大事件も発生しており、そうした事件の背景には、「孤独」や「孤立」の影がみえることが多いように感じられます。

“社会を明るくする運動”では、新たなコンセプトとして「#生きづらさを生きていく。」が採用されていますが、これからの更生保護は、幅広い関係機関や団体と連携しながら、単に保護観察期間中の再犯防止を図ることのみではなく、その人それぞれの

犯罪や非行の背景にある「生きづらさ」を把握して、地域の支援の担い手にバトンをつないでいくことが重要といえます。

こうした課題に関連して、昨年6月に可決成立した刑法等の一部を改正する法律において、満期釈放者や保護観察を終了した者に対する「息の長い支援」を可能とするための更生保護法の改正が盛り込まれ、本年12月までに施行される予定となっています。今後は、医療や各種の福祉サービスを実施する関係機関や、依存症からの回復支援に取り組む民間組織などとの連携強化により一層積極的に取り組む必要があると考えています。

引き続き、町田地区保護司会の皆様におかれましては、更生保護活動の推進に一層のお力添えをいただきますよう、よろしくお願ひいたします。

# 新春の集い・ 表彰状伝達式

令和5年1月20日、午後6時より町田地区保護司会主催による「新春の集い・表彰状伝達式」が、レンブラントホテル東京町田において、ご来賓を少人数に絞って開かれました。昨年も、緊急事態宣言の発出により直前に中止しましたので、3年ぶりの開催となりました。

第1部で、叙勲及び法務大臣賞受賞の方々に対して、当会より記念品が贈呈されました。続いて全国保護司連盟理事長表彰以下の方々に対して、藤井支部長より表彰状と記念品が伝達されました。

次にご来賓の、立川支部長藤井淑子様、町田市副市長赤塚慎一様、町田警察署長島貫匡様、南大沢警察署長小宮山文彦様、桐友会副会長石川洋一郎様よりご祝辞を頂戴しました。続いて桐友会の皆様の紹介がありました。

10分の休憩の後、第2部の懇親会は、司会よりお酌は控えて黙食としてほしいなどの、注意があつて始まりました。今年は当会から図書カード30本と有志より賞品のご提供があり、お楽しみ抽選会がありました。賞品をご提供下さいました皆様ありがとうございました。会員の皆様、今年の運試しはいかがでしたか?盛会のもと各分区ごとに集合写真を撮り、午後8時45分にお開きになりました。

総務部長 鬼頭加壽代



お楽しみ抽選会



堺分区



忠生分区



町田分区



鶴川分区



南分区

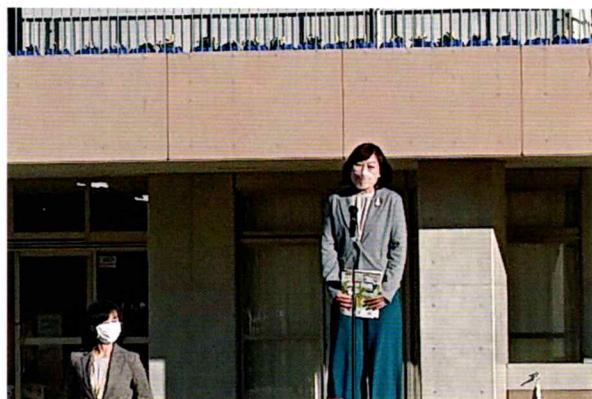
## 表彰者一覧

- 春の叙勲 中里 真二・鬼頭 加壽代  
 秋の叙勲 春山 幸子  
 法務大臣表彰 小宮 長治・山内 壽子・根本 英男  
 全国保護司連盟理事長表彰  
     青柳 さつき・梅木 信一・中溝 孝夫  
     吉川 和男  
 関東地方更生保護委員会委員長表彰  
     飯田 仁  
 関東地方保護司連盟会長表彰  
     大野 操・香田 裕子・千田 章一  
     橋本 邦夫・吉川 達也  
 東京保護観察所長表彰  
     安西 周三・加藤 浩・杉浦 隆  
     杉山 黙・多田 俊子・長嶺 敦  
     細野 和子・矢部 三津雄・山口 尚美  
 東京都保護司会連合会会长表彰  
     榎本 茂生・河合 正行・田林 久嗣  
     廣田 昇克

## 小山中央小学校 人権週間でのお話し

堺分区 山口 尚美

令和4年12月12日とてもよく晴れた朝。保護司の朝礼講話は6年目になります。昨年はコロナ禍でリモートでしたが、久しぶりに対面での全校朝会が出来、今年も堺分区横溝保護司よりお話を頂きました。児童が生活している地域に、更生を見守り、犯罪の予防活動をしている保護司がいること。小学生の放火事件を例に挙げ、面白半分で悪い事をしてはいけないと強く話して下さいました。そして人権週間のキャッチコピー「あなたの色で生きよう。私の色で生きよう」から、みんなの人数分好きな色があり、自分らしさの色は自分にしかない色。自信をもって好き！と言ってほしい。それぞれの個性を認め大切にしてほしいと児童に分かり易く話してくださいました。



## 忠生分区の ICT化への取り組み

忠生分区長 坂倉 優

コロナ禍に伴いICTの活用を進めてきました。役員会議の日程調整は、携帯アプリの「調整さん」を運営するミクステンド株式会社が提供する「TimeRex」を利用し、LINEで行なっています。出欠の回答も簡単で、従来に比べ非常に効率良く日程調整ができるため、今後も継続していく予定です。

役員会議は、ZOOMを使いオンラインで開催

しています。昼間だと予定が合わず参加できない役員もいましたが、全員参加可能な夜間にも気軽に開催できるようになり大きなメリットがあったと考えています。もちろん、当初は操作が不慣れであったり、通信環境が整わなかったりと、参加が難しい役員もいました。しかし、回を重ねるごとに順調に開催できるようになりました。

一方、対面での会議に比べて、オンラインでは会話不足が生じるのではないかと感じることもありました。今後はオンラインと対面とのハイブリッド開催も含め、臨機応変に両方を活用していきたいと思います。

## 小学校との連携活動

鶴川分区 中溝 孝夫

20年前より、地元大蔵小学校3年生の校外授業として、私の畠で農業についての学習を行っています。以前にも近所の畠で行っていましたが、都合が悪いとのことで、ボランティアコーディネーターが、私の畠で行ないたいとの依頼があり、了承しました。

定年後は、児童達に地元の農業の歴史などの話をしています。畠の見学をして、児童達の質問に答えたりして歩き回ります。そして、最後に教室で考えてきた質問に答えて終了となります。毎年同じような質問なのですが、「苗を植えたが、大きく育たない」とか、「いつ収穫できるか？」などの質問も受けています。このような小学校との活動が私の楽しみになっています。



## 第8回社会参加活動

町田分区長 内田 三郎

冬うららかな12月4日、市川主任保護観察官をはじめ対象者1名、BBS会2名、それに当会員14名が本町田「子ども創造キャンパスひなた村」山頂に集合。3年ぶりに行う社会参加活動のためだ。

開催セレモニー後各班に分かれ、掃除班は竹ぼうきと箕で山頂道路の落葉の清掃。

みるみる  
黄色から黒  
の道路に変  
化する。炊  
事班は飯た  
きと大鍋で  
肉たっぷり  
のカレー作



り。香辛料の香りと湯気で見た目もおいしそう。焚火班は枝や落葉を燃やし焼いも作り。みんな童心に返ったようだ。

青空の下での昼食は、カレー4杯お代わりする強者も。食後、参加者全員が感想を述べ活動も終了。帰りに焼いもとカレーのお土産を持って解散。お疲れさまでした。

## 自主研修と社会貢献活動

南分区 宮本 幹雄

南分区では、12月6日に自主研修をレンブラントホテル東京町田にて行った。

講師には更生保護法人鶴舞会施設長 根本英男氏をお招きし講演をしていただいた。根本先生は永年にわたり矯正施設での処遇に携わり、その道のプロフェッショナルでもあります。今回対象者との向き合い方、処遇の心得を講義いただきました。よく話を聞き、我慢と忍耐が大事ですとのお話でした。

また12月11日、3年ぶりとなる更生保護法人鶴舞会在所者との社会貢献活動として、高尾山薬王院清掃活動に参加することができまし

た。 当日は東京保護観察所立川支部牧主任保護観察官が出席、南分区から2名、堺分区から1名の保護司が参加しました。心身共に清々しい気持ちの1日になった事と思います。令和5年度は新型コロナウイルスの収束を願い、分区活動が予定通りできます様願っています。



## 社会貢献活動の開催について

鶴舞会 根本 英男

3年ぶりに高尾山薬王院における社会貢献活動を開催することができた。東京保護観察所立川支部牧主任保護観察官及び町田地区保護司会から3人の保護司にご参加いただいた。

12月11日11時本堂にて護摩焚を見学、その後不動堂周辺の落葉などを掃き始めた。掃除中には、多くの参



拝者や登山者から労いの言葉をかけていただいた。清掃作業開始前に、ご指導をいただいた僧侶の方からは「自身の心の中にある怒りや弱さを落葉と共に掃き清め、掃除した個所が綺麗になったぶん自身の心も綺麗になり、社会の中で再び努力する自信にしてほしい。」とのお言葉をいただいた。昼食前の講話では、学生時代からの友人を交通事故により亡くされた経験から命の大切さとご遺族の心情をお話しいただいた。

活動を終えて「素晴らしい環境の中で、大変良い経験が出来た。講話では涙が出た。」との感想が述べられた。保護司の皆様ご指導ありがとうございました。

分区だより

## 多摩連全体研修会 「誰一人取り残さない社会の現実に向けて」

研修部 木目田 賢市

2月27日パルテノン多摩大ホールにおいて、令和4年度多摩地区保護司会連絡協議会保護司全体研修会が行われました。コロナ禍により3年振りの開催となった全体研修会には、多摩各地区保護司会員が参加し、町田地区保護司会からも多数の会員が出席しました。

式典では中里真二多摩連研修副部長(当会会長)司会の下、小山茂多摩地区保護司会連絡協議会会长、ご来賓の生駒貴弘東京保護観察所所長、藤井淑子東京保護観察所立川支部支部長、森久保康男東京都保護司会連合会会长のご挨拶を賜りました。



講演は「誰一人取り残さない社会の実現に向けて」と題し、炭谷茂恩賜財団済生会理事長からのお話しを拝聴致しました。最初に先生の学生時代から現在の済生会に至るまでの職歴や更生保護との関わり、時々の取り組みや問題点のお話を頂きました。

また、今回のテーマである「誰一人取り残さない社会の実現に向けて」(ソーシャルインクルージョン)では世界各国や国内での取り組みについて、ソーシャルファームの実例を上げ分かりやすくお話し頂きました。

我々保護司にとって、出所者の就労支援や社会復帰につながる大変参考になるお話しでした。

## 第8回町田地区保護司会・桐友会合同懇親会

町田地区桐友会 小林 文子

令和4年11月21日、町田地区桐友会が担当して、レンブラントホテル東京町田にて開催しました。

この会は平成26年に保護司会、桐友会両会長の発案で始まり、毎年交互に担当して内外情勢や近況等語り合い、親睦を深めて来ました。

実は桐友会担当は、予定の令和2年度が新型コロナの為に中止、令和3年11月保護司会担当に次いで、平成30年以来4年ぶりです。

当日は、夜来の雨も上がり窓外に大山の青い姿が望めました。保護司会会員12名、桐友会会員16名、計28名の出席でした。

嶋崎副会長の開会の言葉に続き、熊澤会長は保護司の定年延長について懸念を述べ、年1回の懇親会、ゆっくり歓談を深めたいと挨拶しました。中里真二保護司会会长は全国的な保護司不足の状況、地区保護司会が40周年を迎えて記念誌作成、膨大な資料のデータベース化、会則改定の考えなど話されました。

懇親会乾杯の音頭は中里猪一桐友会相談役、懇談の中では、市の更生保護活動対応について、第6ブロックのテーマ、など話題は尽きません。

中締めは石川副会長、記念写真撮影後中村副会長の終りの言葉で、笑顔の散会となりました。





## 法務大臣 感謝状受賞

美紘建興株式会社

代表取締役社長 平中 洋行 様

私は協力雇用主として活動していく中で、「見る」「認める」ことを忘れないよう努めている。周りのことは関係なく独りでも努力し続けられる人間は少ない。誰かに見ていてほしい、認められたいと願っているのではないだろうか。私がその誰かになることで、少しでも前へ進んでいくことができればと思い活動している。実際に一人一人を見守り認めていく中で、少しづつでも成長していく姿をみることができる。

今回このように表彰を受けることができたのは、私達を見ていて認めてくださる方々がいることの表れとしてとても嬉しく思っております。これまで振り返りつつ、これからも日々精進していく所存です。



# 東京保護觀察所長感謝狀受賞

田形 剛 様

株式会社 惠神 代表取締役社長

この度は、東京保護観察所長 感謝状を頂戴し、誠に光栄に思います。これもひとえに町田地区保護司会の皆様方のご指導・ご鞭撻、お力添えを頂いたおかげでございます。

町田地区更生保護事業協力事業主会に入会した際は、何も専門知識がなかったため、とても不安でした。しかし今では、さまざまな経験を積むことができ、多くのことを学び、私自身も日々進化しております。これからも協力事業主会の活動を通して微力ではありますが、さらに身を引き締めてこの表彰に恥じないよう一層精進し更生保護活動に、また地域社会のために尽力していく所存でございます。

「協力事業主会さん紹介」今号では、(インタビュー形式の)企業紹介ではなく、内容を変更しております。昨年11月29日東京更生保護事業関係者顕彰式典において二社の企業が感謝状を授与されました。そこで今回はこの受賞後の挨拶を記載させていただきました。

## 協力事業主会による多摩少年院視察研修

広報部長 矢口 昇

3月2日、協力事業主会による多摩少年院視察が行われました。協力事業主会からは4社で5名、ハローワーク町田の岡本氏、保護司会からは中里会長他5名が参加しました。

まず、多摩少年院の施設長である池田院長と施設専門官2名による挨拶や施設内容の説明を受けました。院長の挨拶の中で当少年院は、今年「創立100周年を迎えた」と言う伝統ある施設で、わが国初の矯正院（少年院）として大正12年1月に発足したことです。

施設内には、70年以上前の「看守日誌」等が展示している資料室が設けられていました。現在の少年院は、収容数の減少が顕著で174名の定員に

対して84名の入院者で最近の収容者は、時代を反映してか詐欺犯で逮捕されている者が目立つようになっているとの事でした。

専門官との意見交換の中で、対象者の更生はまず就労が「カギ」となるとの話を頂き、参加企業からは、施設内での企業説明会の要望などが出ていました。



## 多摩連「保護司会つれづれ」の紹介

広報部長 矢口 昇

多摩地区保護司会連絡協議会（多摩連）では、ホームページを開設しています。トピックス・活動報告ほか各地区保護司会のコーナー等情報発信しています。特に「保護司会つれづれ」は各保護司会が毎月持ち回りで“保護司の思い”を発信しています。平成12年より開設され現在に至っていますが内容はエッセイをはじめ、俳句・短歌・絵画・彫刻・郷土史・料理・手品など様々な内容で読みやすいものです。当会からも毎年1名の方が寄稿掲載しています。前年度は、堺分区の安西保護司からの寄稿を掲載しています。

遡り22年間の作品もご覧いただけます。



多摩連ブログ「保護司会つれづれ」



## お詫びと訂正

116号でご紹介させて頂いた、新任保護司紹介欄のお名前の漢字が間違っております。

正 青木 和男保護司  
誤 青木 和夫保護司

お詫びを申し上げると共に、ご訂正をさせて頂きます。

## 新任保護司ご挨拶



南分区  
**横田 竜雄**

昨年12月に保護司の委嘱を受けました南町田在住の横田竜雄です。何度かの新任研修の中で特に印象に残ったのは、「更生」という言葉です。その言葉の意味を良く理解し、考えながら活動したいと思います。どうぞ宜しくお願いします。



### 編集後記

「町田地区保護司会だより」第117号をお読みいただきありがとうございます。

街を歩いていても人通りが増え、観光地や飲食店も、だんだんコロナ禍以前の活気を取り戻してきたように思います。

町田地区保護司会も、3年ぶりに「新春の集い」が開催され、多くのイベントが復活しました。

リモートなど、集まらなくても意見交換ができる気軽さも経験ましたが、やはり対面で語り合うことはとても楽しく、大切なことだと再確認しました。

広報部員5名、構成から発行まで何度も集まり第117号を発行しました。

ぜひ、感想やご意見をお聞かせください。

お忙しい中、取材や原稿作成にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

広報部：手塚圭子

町田地区保護司会

〒194-0036

東京都町田市木曾東3-1-3 町田市教育センター2号館

E-mail : info@machidachiku-hogoshikai.jp